岩盤ボーリング柱状図

調　　査　　名	国道182号外道路災害復旧事業に伴う業務委託（一般国道182号）
事　業　・　工　事　名	
調査目的及び調査対象	道路　地すべり・斜面崩壊

ボーリング名	Bor.No.1-2	調査位置	広島県神石郡神石高原町地内			北緯	34° 46’ 12.1900″
発注機関	広島県東部建設事務所	調査期間	平成30年 9月21日～平成30年 9月21日			東経	133° 16’ 54.3600″
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	433.55m	角度	180° 上 下 0° 90°	方向	北 0° 西 270° 東 90° 南 180°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試錐機	東邦地下工機D-0
総掘進長	12.00m								エンジン	ヤンマーディゼルNFD-13	ポンプ	東邦地下工機BG-3

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	工学的地質区分名（模様）	工学的地質区分名	色調	風化の程度	変質の程度	硬軟	コア形状	割れ目の状態	岩級区分
1	433.25	0.30		表土	褐						
	432.25	1.30		礫混り砂	褐						
2				泥岩	赤褐	w5	h2	E	Ⅶ	d	DL
3											
4	429.65	3.90							Ⅵ		
5					～						
6											
7											
8	425.55	8.00						D	Ⅵ		DL
	424.65	8.90						C	Ⅳ	c	DH
9	424.55	9.00			灰褐	w4	h1	D	Ⅵ	d	DL
	424.05	9.50						C	Ⅳ	c	DH
10	423.65	9.90						D	Ⅶ	d	DL
	423.05	10.50						C	Ⅳ	c	DH
11	422.65	10.90						D	Ⅵ	d	DL
	421.95	11.60							Ⅴ		DM
12	421.55	12.00									
13											
14											
15											
16											
17											

コア採取率 ―×― （%）　最大コア長 ―●― cm　RQD ―― [%]　（0 20 40 60 80）

記事

礫混りシルトからなる。
φ2～5mm位の角礫が10%位混る。
φ5～10mm位の角礫が50%位混る。
マトリックスは、シルト質砂。

全体的に風化している。

GL-1.3～3.9m付近、粘土状コア。
原岩組織はやや不明瞭。
指圧にて容易にコアは崩れる。

GL-3.9～8.9m付近は砂状コア。
やや強い指圧にてコアは崩れる。
長石もバラバラに粉砕される。

黒色のフィルム状の挟みが点在する。
原岩組織はやや不明瞭。

GL-8.4～8.9m付近はやや硬質となる。

GL-8.9～12.0m付近は、コアは短柱状～礫状が主体となる。
垂直方向と45°位の亀裂が多い。

GL-9.0～9.1m付近、亀裂に沿って一部砂状となる。
GL-9.1～9.5m付近、長石が密集しているが、軟質化している。
GL-9.9～10.5m付近、やや軟質化している。
GL-10.95～11.60m付近、やや軟質化している。
ハンマー打撃により、濁音を発する。

GL-11.6m以深、コアは礫状が主体となる。

特にGL-11.8m以深、φ5mm以下の角礫状を呈する。

孔内水位／測定月日

標準貫入試験　深度－N値図（0 10 20 30 40 50 60）

N値	深度	打撃ごとの貫入量	50回の貫入量
10	1.15	10	300
	1.45		
10	2.15	10	280
	2.43		
8	3.15	8	300
	3.45		
7	4.15	7	300
	4.45		
8	5.15	8	300
	5.45		
16	6.15	16	300
	6.45		
13	7.15	13	300
	7.45		
21	8.15	21	300
	8.45		
22	9.15	22	300
	9.45		
10	10.15	10	300
	10.45		
20	11.15	20	300
	11.45		
42	12.15	42	300
	12.45		

自沈時の貫入量

原位置試験

室内試験

削孔状況

削孔月日	削孔速度（cm／h）	孔径・孔壁保護	コアチューブ・ビット	給圧（MPa）	回転数（rpm）	送水圧（MPa）	削孔水・送水量（L／min）	排水量（L／min）
9/19		66／ケーシング	S／MC	100	80	2.0	W3 12.0	2.5
9/20								